

愛知万博10周年記念



インタープリター 愛・地球ミーティング

愛知発、世界へ、
未来へのメッセージ



はじめに

2005年の愛知万博で行われた「森の自然学校」では、「森の案内人」と呼ばれるインタープリターが、自然の発するメッセージを楽しく分かり易く伝えることにより、子どもたちを含む多くの参加者が、自然とのふれあいを通して「自然の叡智」を体感することができました。

愛知県では、この万博時の取組を、地域の身近な自然環境を題材にした参加体験型の環境学習として、環境学習施設「もりの学舎（まなびや）」において継承・発展させてきました。これは、愛知万博、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）、ESD ユネスコ世界会議のすべてとつながる、愛知県ならではの独自性の高い取組で、ESDの具体的実践例の一つと位置づけることができます。

こうした流れの中、万博10周年の節目にあたり、改めて「自然の叡智」に学ぶことの大切さを県民の皆様にも思い起こしていただき、その想いを次世代につなげ、環境分野における人づくりの輪を一層大きく広げていくことをねらいとして、県では平成27年10月に「インタープリター愛・地球ミーティング」を開催しました。このミーティングでは、世界6か国のインタープリターの活動発表や参加者との交流などを通して、国や文化の違いを越えた世界共通の重要なキーワードやヒントが数多く得られました。

本誌は、そうした成果を当日参加いただいた方以外にも広く共有することで、今後の環境学習や持続可能な社会を支える人づくりの輪が一層広がることにつながればとの思いで取りまとめました。本誌が、関係の方々のお手元に永く置かれ、今後の取組の一助となれば幸いです。



平成28年3月

愛知県知事
大村秀孝

目 次

| | 頁数 |
|--|----|
| 第1章 愛知発、世界へ、未来へのメッセージ | 2 |
| 第2章 愛知万博10周年記念「インタープリター愛・地球ミーティング」開催概要 | 5 |
| 1 世界のインタープリターとのトーク・セッション | 6 |
| (1) メインセッション | 7 |
| (2) 交流セッション | 8 |
| (3) メッセージ発表 | 9 |
| (4) 閉会 | 9 |
| <出演者プロフィールと発言のポイント> | 10 |
| ・アンバー・パーカー（アメリカ） | |
| ・サラス・ウィマラバンダラ・コタガマ（スリランカ） | |
| ・ゲーザー・マリアンネ・ヴォルツェ（ドイツ） | |
| ・サムウェル・ナイカダ（ケニア） | |
| ・ジェイミー・セデーニョ・ソリス（コスタリカ） | |
| ・浅野智恵美（日本） | |
| <交流セッションでの各インタープリターの回答とコメント> | 22 |
| <交流会> | 24 |
| <トーク・セッション会場参加者へのアンケート結果概要> | 25 |
| 2 自然体感プログラム特別企画 | 26 |
| <チーフインタープリター紹介> | 28 |
| 3 関連事業 自然体感プログラム「おかえり！森の自然学校」 | 29 |
| 4 エクスカーション（離島振興モニターツアー） | 30 |
| 第3章 写真でふりかえる「インタープリター愛・地球ミーティング」 | 31 |
| 参 考 | 42 |
| ・インタープリターとは | |
| ・2005年日本国際博覧会（愛知万博）における「森の自然学校」の取組 | |
| ・「もりの学舎」とは | |

第1章

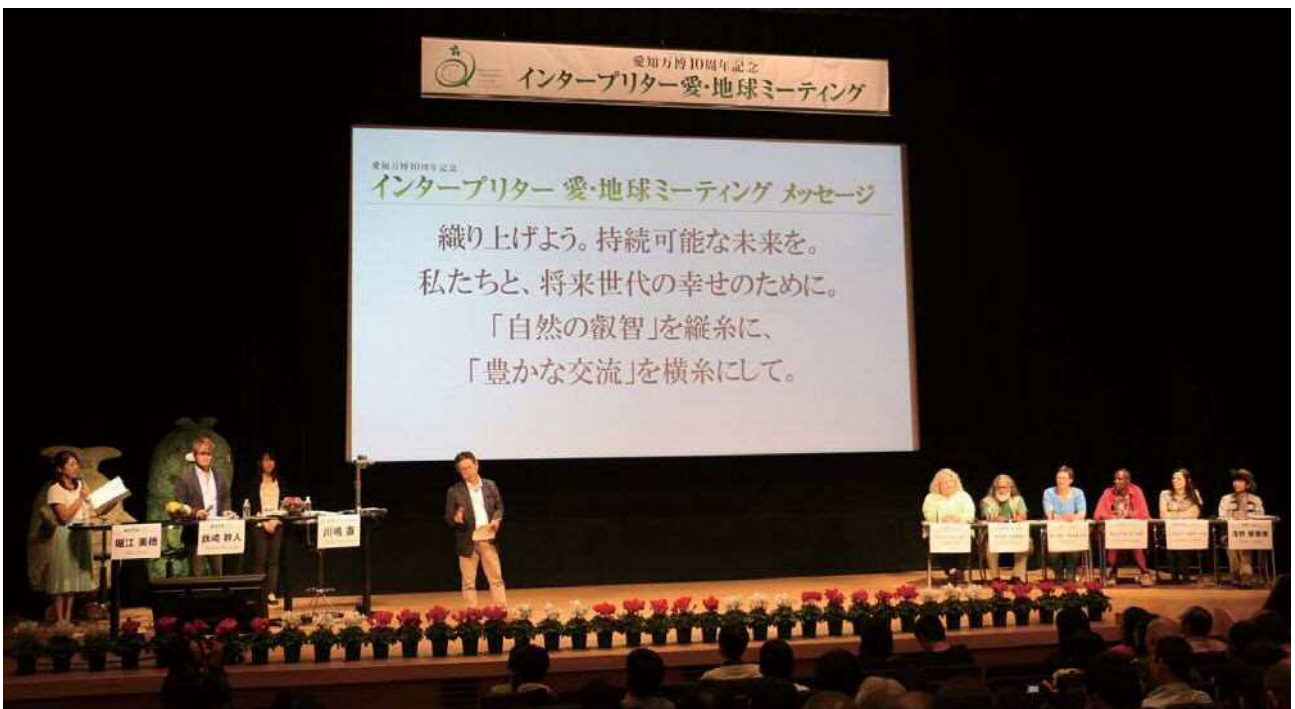
愛知発、世界へ、未来へのメッセージ

平成27年10月11日（日）に開催した「インタープリター愛・地球ミーティング 世界のインタープリターとのトーク・セッション」では、世界6カ国のインタープリターの活動発表や意見交換、参加者との交流を行いました。発表されたどの事例も、参加・体験型のプログラムにより子どもらの感性に働きかけ、行動につなげていくことを重要視しており、国の違いに関わらず大切なことについて確認し合う機会となりました。また、参加者の感性を揺さぶる言葉、心に残るフレーズなどを通して、感性を大切にしながら活動している6人の想いが会場参加者にも伝わりました。



印象的な写真や動画、具体的なエピソードを交えた活動発表

「足を濡らし泥んこになるといった体験が大事」と訴えたアメリカ アンバー・パーカー氏は、「泥の香りを覚えていますか？」と会場に問いかけ、参加者の多くが手を挙げて応えました。他のインタープリターからも、感性に働きかける実体験や行動につなげることの大切さが伝えられました。



「愛・地球博メッセージ」を参考にしたメッセージを発表

トーク・セッションのしめくくりとして、「愛・地球博メッセージ」を参考とした「インタープリター愛・地球ミーティング メッセージ」を発表し、「自然の叡智」を軸に、「豊かな交流」によって人づくりの輪を一層広げていくことを、出演者と会場参加者の皆で確認・共有しました。

本ミーティングの成果を参加者以外の方にも広く共有するため、「インタープリター愛・地球ミーティング メッセージ」に当日のエッセンスを盛り込み、「愛知発、世界へ、そして未来へのメッセージ」としてここに具体化しました。

愛知発、世界へ、そして未来へのメッセージ

高度経済成長と国土の開発の進展等により、わが国の豊かで多様な自然は減少し、とりわけ都市部では身近な自然の消滅や質の低下が著しくなっています。このため、日常の便利な生活の中で、子どもたちは身近な自然とふれあう機会が単に少なくなっただけでなく、五感を通じて本物の自然とふれあい、その声を聞くといった体験も少なくなっています。

愛知県では、平成 27 年 10 月、海外で活躍しているインタープリターを招き「愛知万博 10 周年記念 インタープリター・愛・地球ミーティング」を開催しました。ここで私たちは、文化や風土に応じた自然との様々な付き合い方、そして自然を守るための多くの知恵があることを知りました。国や文化が異なっても、感性を養う自然体験、とりわけ幼い頃の豊富な自然体験はとても大切であり、その経験は何千何万の言葉よりも人生を豊かなものにする、そして「環境のことを考え、行動する人づくり」につながっていくことを知りました。

私たちは、世界各地で取り組まれている事例に学びながら、次の時代を担う子どもたちのために自然にふれあう機会を確保していかなければなりません。そして、子どもたちとともに、実体験を通して、自然には素晴らしい知恵や仕組み、多くの命を育む力があること、いわゆる「自然の叡智」を感じ、私たちが自然の一部であることを学び、人と自然が共生する社会づくりに向けて行動しなければなりません。

今私たちは、この愛知から、世界に、そして未来に呼びかけます。

自然の持つ素晴らしさである「自然の叡智」を縦糸に、そして人と人が出会い、語り合い、理解し合い、尊敬し合う「豊かな交流」を横糸にして、持続可能な未来を織り上げていきましょう！

私たちと将来世代の未来と幸せのために！

【トーク・セッションでの世界のインタープリターの主な発言】

(敬称略)

□ アンバー・パーカー【アメリカ】

泥の中で足を濡らして自然を体感した経験は、記憶に深く刻まれます。自然体験を通して、私たちは自然の一部だということを知り、自然を慈しもうという気持ちが生まれてくると信じています。



□ サラス・ウィマラバンダラ・コタガマ【スリランカ】

インタープリテーションとは、何かを説明するのではなく参加者の心に事実をもって語りかけること。自然は体感しなければ分かりません。自然の声を聞いてください。ただ手をこまねているのではなく、行動が必要です。



□ ゲーザー・マリアンネ・ヴォルツェ【ドイツ】

幼少時代は、感性を養う時期。子どもたちにとって冒険はご褒美。幼い頃に自然を体感する機会を確保することが、かけがえのない自然を尊重する、自立した人格を育てる一番の方法だと思います。



□ サムウェル・ナイカダ【ケニア】

森では、人と自然の関わりや自然の大切さを体感でき、自然からの恩恵に気づくことができます。次世代に豊かな自然を残すため、みんなが考え方を換え、環境を愛し、環境保全のために行動していくことが大切と考えます。



□ ジェイミー・セデーニョ・ソリス【コスタリカ】

環境問題を解決するためには、答えをすぐ求めるのではなく、体験を通して感性に働きかける必要があります。言葉を並べるよりも多くを伝えることのできる「行動」を通して、皆で環境の大切さを分かち合うことが重要です。



□ 浅野智恵美【日本】

大切にしたいのは、参加者が発見する喜びです。参加者にワクワクしながら五感をフル活用して旬の自然を体感いただけるよう演出しています。



※ 各インタープリターのプロフィールと発表・発言のポイントは p. 10~p. 21 に掲載

帰国したインタープリターからは、その後、「世界中から集まったことで、互いの経験を分かち合い、自分を異なる視点から見つめ直す機会を得た」、「同じ志を持つことが分かり、元気づけられた」等のコメントが届きました。また、「自然体感プログラム特別企画に参加し、ヒントをたくさんもらった」、「自国での活動にも取り入れたい」といった声が寄せられました。今回の交流を通して、6人のインタープリターの向こうに人づくりの輪がさらに広がっていくことを確信することができました。

愛知県では、様々な施策を推進するうえでの大きなヒントと裏付けが得られた今回のミーティングの成果を活かし、今後さらに持続可能な社会づくりを未来へつなげる取組を進めていきます。

第一章の締めくくりに、スリランカのコタガマ氏から寄せられた言葉を引用します。

私は、保護すべき対象として自然と向き合っているだけではなく、むしろ人間らしさを守るために自然を活用しています。自然こそ、苦悩と不協和に満ちた多様な世界の中にあって、変わらず人々をつなぐ存在— Unity in Diversity —なのです。 (サラス・ウィマラバンダラ・コタガマ)

第2章 愛知万博10周年記念 「インタープリター愛・地球ミーティング」 開催概要

愛知万博10周年の節目にあたり、万博で活躍したインタープリターに焦点を当てた「インタープリター愛・地球ミーティング」を平成27年10月に開催しました。

このミーティングは、愛・地球博記念公園に隣接する愛知県立大学長久手キャンパスにおいて、世界6か国のインタープリターの活動発表や意見交換、会場参加者との交流を行う「世界のインタープリターとのトーク・セッション」と、国内各地で活躍している約50名のインタープリターが愛・地球博記念公園全体を利用して実施する「自然体感プログラム特別企画」で構成しました。

また、関連事業として、愛知万博で実施された「森の自然学校」のプログラムを再現する「おかえり！森の自然学校」を、「愛知万博10周年 第32回全国都市緑化あいちフェア」の開催期間に併せて、同公園内の県の環境学習拠点施設「^{まなびや}もりの学舎」とその周辺で実施しました。

万博10周年の節目にあたり、改めて「自然の叡智」に学ぶことの大切さを思い起こし、その想いを次世代につなげ、環境面での人づくりの輪を一層大きく広げるためのプロジェクト

インタープリター愛・地球ミーティング

世界のインタープリターとの
トーク・セッション（10月11日（日））



（愛知県立大学長久手キャンパス）

自然体感プログラム特別企画
（10月12日（月・祝））



（愛・地球博記念公園）

関連事業 自然体感プログラム「おかえり！森の自然学校」
（9月12日（土）～11月8日（日））
（愛・地球博記念公園内「もりの学舎」及びその周辺）

1 世界のインタープリターとのトーク・セッション

トーク・セッションでは、アメリカ、スリランカ、ドイツ、ケニア、コスタリカの5カ国及び日本で活躍するインタープリターを招き、それぞれの活動発表、インタープリター相互の意見交換、会場参加者との交流等を行いました。多くの参加者にとって、グローバルな視点で地球環境や自然の大切さを考える機会となりました。

【世界のインタープリターとのトーク・セッションの概要】

1 日時

平成27年10月11日（日）午後1時から午後4時まで

2 場所

愛知県立大学長久手キャンパス講堂

3 出演者（敬称略）

世界のインタープリター

| 氏名 | 国名 | 職名等 |
|-------------|-------|-------------------------------|
| アンバー・パーカー | アメリカ | シンコティグ湾フィールド・ステーション事務局長 |
| サラス・コタガマ | スリランカ | コロンボ大学教授（環境科学・動物学） ／鳥類学者 |
| ゲーザー・ヴォルツェ | ドイツ | ズュートプファルツ「森の幼稚園」理事 |
| サムウェル・ナイカダ | ケニア | マサイの森「デュポト・フォレスト」リーダー |
| ジェイミー・セデーニョ | コスタリカ | 環境エネルギー省保全地域庁地域連携環境教育コーディネーター |
| 浅野智恵美 | 日本 | NPO法人もりの学舎自然学校インタープリター |

コーディネーター 川嶋 直（公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長）
司 会 鉄崎幹人（アウトドア自然派タレント）
堀江美穂（ZIP-FM ナビゲーター）

4 会場参加者数

約500人

5 プログラム

- アトラクション カラーキッコロによるパフォーマンス
- 開 会
 - ・主催者あいさつ（大村秀章 愛知県知事）
 - ・来賓あいさつ（杉浦孝成 愛知県議会副議長）
- メインセッション（世界のインタープリターの活動発表）
- 交流セッション（インタープリター間の意見交換、ステージと会場参加者との交流）
- 「インタープリター愛・地球ミーティング」メッセージの発表
- 閉会

6 その他

- ・講堂ホワイエで、県内のNPO、企業、学生、自治体等による環境取組のパネル紹介等
- ・トーク・セッション終了後に関係者交流会を愛知県立大学食堂で開催
- ・子育て世代の参加を促すための託児を実施

(1) メインセッション

メインセッションでは、世界のインタープリターが発表を行い、どこで、誰に対して、どのような活動を実施しているのか、そして、どのような想いで活動しているのかなどについて、色鮮やかな写真や動画、具体的なエピソードを交えて紹介しました。

「幼少時代は感性を養う時期」、「静寂を聴く」、「行動は、言葉を並べるよりも多くを伝えることができる」など、参加者の感性を揺さぶる言葉、心に残るフレーズがいくつもありました。



印象的な写真や動画を多用した活動発表

各発表の合間には、愛知万博時に「森の自然学校・里の自然学校」統括プロデューサーを務めたコーディネーター・川嶋 直 氏、万博時に自身もインタープリターだった司会・鉄崎 幹人 氏、三児の母でエコ検定合格の司会・堀江 美穂 氏から、「文明や便利さをどう考えるか」、「自然に大きいも小さいもないし、自然の中では大人も子どももない」といった質問やコメントが出されました。6人のインタープリターからは、「泥の香りが生涯記憶に残る」、「インタープリテーションとは、事実をもって心に語りかけること」、「平和や持続可能性は必要不可欠なもの」、「科学の目だけでなく、感覚を開いていくことが大切」などと、更に深い言葉やフレーズが引き出されました。



コーディネーターの川嶋 直 氏



司会の堀江 美穂氏（左）、鉄崎 幹人氏（右）

6人が発表を終えた後、コーディネーターと司会の3人が、「各インタープリターの感性の素敵さも感じた」、「インタープリターは、見えるものを通して見えないものを伝えている」と締めくくりました。

※ 各インタープリターのプロフィールと発言のポイント（次の交流セッション分も含む）はp.10～p.21に掲載

(2) 交流セッション

続いて行われた交流セッションでは、6人のインタプリターが、コーディネーター・川嶋氏の進行のもとキーワードを書き込みながら、次の2つのテーマで話し合いました。

<テーマ>

- ・他国のインタプリターの発表を見ての感想
- ・インタプリテーションによって参加者に伝えたいこと



感想や意見を出し合うインタプリター

1つめのテーマ「他国のインタプリターの発表を見ての感想」では、6人から、「国や方法は異なっても、伝えたいことは同じ」、「行動する必要があるというメッセージは共通」、「同じ地球で、歩みをともにしていることが分かり、元気づけられた」といった感想が出されました。6人は、どの事例でも参加・体験型のプログラムを提供していることに驚きつつも、これまでの活動に自信と確信を感じている様子でした。

2つめのテーマ「インタプリテーションによって参加者に伝えたいこと」では、「体験によって私たちが自然の一部だということを知り、自然を慈しむようになってほしい」、「自然の声を聴いてほしい」、「自然からのメッセージを子どもたちの心に根付かせたい」、「意識や感性を養うプロセスが大切」といった意見が出され、感性を大切にしながら活動をしている6人の想いが会場参加者にも伝わりました。また、「参加し、環境保全に関わることが第一歩」、「環境との関わりを真に理解し、意識していく必要がある」、「自然や周りの声を聴き、社会に貢献して欲しい」など、行動につなげていくことの重要性が訴えられました。



回答を映しながらコメントする
6人のインタプリター

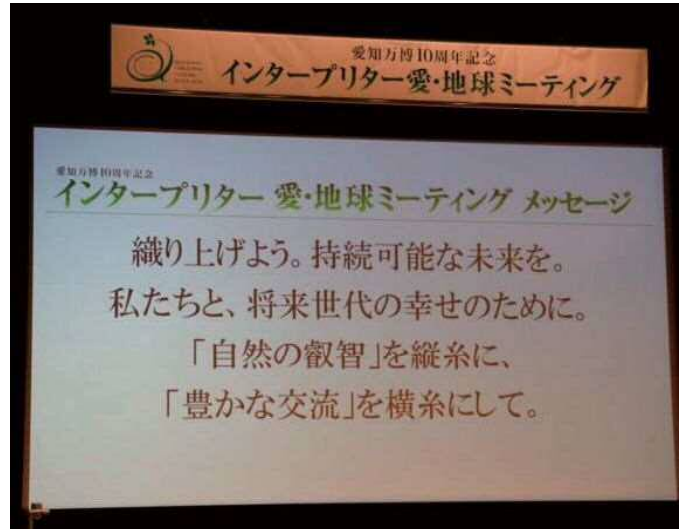
会場参加者からも、「幼い頃から自然に触れることが大切だ」、「自然を感じることから始めよう」などの意見が出されました。

※ 各インタプリターの交流セッションでの回答と発言の内容は、p. 22～p. 23に掲載

(3) メッセージ発表

トーク・セッションの締めくくりとして、
「織り上げよう、持続可能な未来を。
私たちと、将来世代の幸せのために。
『自然の叡智』を縦糸に、
『豊かな交流』を横糸にして。」

というメッセージが発表されました。これは、愛知万博の開催に際してまとめられた「愛・地球博メッセージ」で使われている言葉を参考にしたものです。「自然の叡智」を軸に、「豊かな交流」によって人づくりの輪を一層広げていくことを、出演者と会場参加者の皆で確認・共有しました。



(4) 閉会



トーク・セッションでは、会場参加者に三色の色紙を使って三択で意思表示いただく参加型の企画を随所に盛り込みました。

閉会にあたり、司会者が「自然体感プログラムに興味を沸いた人や、参加しなくなった人、インタープリターになりたくなった人は、色紙を挙げてください。」と呼びかけました。これに対して、多くの参加者が笑顔で色紙を挙げて応えました。会場全体が自然体感の素晴らしさや大切さを共感する雰囲気になれながら、フィナーレを迎えました。

